

# 長崎高教組第88回定期大会

## 「3か年計画」完成年度に、青年部を復活し、現勢回復を実現し、増勢へ転じよう



長崎高教組は、6月24日、大村市総合福祉センターで第88回定期大会を開催しました。各支部・分会の代議員51人、特別代議員(青年部・女性部・障教部)3人、監査1人、本部5人が参加しました。

鍛冶副委員長が、通常国会での森友・加計問題、共謀罪法の強行採決など安倍内閣の「あるまじき行為」を強く糾弾し、立憲主義、民主主義を取り戻し、憲法を守り、子どもと教育を守るため、定期大会での活発な討論を期待すると熱く訴え、定期大会の開催を宣言しました。

執行委員長挨拶では、小田委員長が3点にまとめて挨拶を行いました。第一に、「3か年計画」完成年度の目標として、青年部の復活、現勢回復をめざし総当たり対話運動にとりくむこと。昨年度、新採及び新採3年目までの青年教職員の8人が加入し、今年度も4月から定期大会まで新採が4人加入(定期大会後さらに1人の新採が加入しました)したことを紹介し、新しい風が吹き始めていることを指摘しました。

第二に、教職員の超勤問題を改善し、働きやすい職場を実現すること。「ブラック部活」で認識が進んだ教職員の超勤問題について、7月集約予定の「一人ひとりが感じ

る減らしたり、なくしてほしい業務と長時間労働は正のための条件整備についてのアプローチに全職場でとりくみ、超勤問題を労働問題だけでなく、教育問題という観点で論議をまきおこすことを提起しました。

第三に、憲法のすばらしさを再確認し、民主主義と基本的人権を守ることに。安倍政権の横暴の中で、憲法を、平和を、子どもを、生活を守るため、子どもたちの未来に責任をもつ教職員が声をあげる必要性を強調しました。

来賓挨拶では、全教書記次長の壇原毅也さんから全教執行委員会を代表して挨拶をいただきました。(別掲)

また、大会には29の団体が祝電・メッセージが届けられ、前高教組委員長の大場さんが議長をつとめる長崎県労連からのメッセージが代読されました。

議事に入り、第1号から第5号議案の提案を本部執行部が行いました。第1号議案では、決算の面から、昨年度の運動

# 長崎高教組新聞

発行  
〒850-0013 長崎市川中2丁目2番5号  
長崎高教組会館  
長崎県高等学校教職員組合  
☎ (095)-827-5882  
FAX (095)-826-2976  
編集責任者 小田 誠  
購読料 一部10円  
組合員は組合費に含む  
メールアドレス  
naga-kks@sinet.or.jp

が総括され、今後の組織拡大の必要性、全教共済への加入者の増加が呼びかけられました。続いて島原商業分会の原口監督から、拍子により、第1号議案は承認されました。第2号・4号・5号の運動方針、選挙管理委員、スローガンについては、馬場書記長が一括して提案しました。第2号議案の運動方針案の主な点は、16年度の運動の総括、組織拡大の教訓と課題、職場活動、全教共済、専門部等のとおりくみ、確定交渉・春闘交渉の前進点、夏・秋・冬の教研の



2・4・5号議案を提案する馬場書記長

【壇原全教書記次長のあいさつ抜粋】

本大会に参加させてもらって、議案書や教文誌「長崎の教育」を読ませていただきました。組織強化・拡大を第一の課題としていること、年に3回の教育研究集会を開催し教文誌を発行していること、教育に限らずさまざまな民主団体の活動に積極的にとりくまれていることを知り、感銘を受けました。

憲法第99条で「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。」と公務員の憲法遵守義務を定めています。公務員である現職の首相が、憲法改正を声高に主張することに異を唱える声が大きくなり、不思議さを感じます。「共謀罪法が成立したので、あの演説会に行きずらいな」なんてことを考えたりしたら、相手の思うつぼです。この国の将来を憂えてしまいます。国際的にも恥ずかしい国になってきていると感じます。

岩波書店が発行している総合雑誌『世界』に、高校の教員から「最近、高校生の荒れが気になる」という投稿が載っていました。政治家の発言を真似る生徒が目につく。「〇〇員がガン」など、意図的に言っているとは思えないが、言ってよい言葉かよくない言葉かの判断がない。人権意識が欠けている。学年集団で一つひとつチェックして指導しているが、政治家の人権意識の欠如や品格の無さが影響をしていると感じる。自覚を持った教員が、社会は自分たちでよくすることができるとことを伝え、実践することが大切。言われた通りにやる教員が、言われた通りにやる生徒を拡大生産している。若い教職員は、多忙の中で考えるヒマもない状況におかれている。あらためて、教員の存在の大切さ思う。

熊沢誠甲南大学名誉教授は、労働三権の遵守が産業民主主義であるとしたうえで、産業民主主義で大切なのは、なによりも労働条件に関する発言権と決定参加権だと指摘しています。それによって、いくら体調不良でも働き続けられる「ゆとり」や、助け合える「仲間」、少なくとも日常の仕事のことは決めることができる「自己決定=一定の参加権」などを獲得することができます。長く働き続けられる職場がいい職場といえるが、教育の職場は今どのような状況でしょうか。

安倍教育再生の締めつけは、「ゆとり」、「仲間」、「自己決定」を取り上げていっています。その他にも、給付制奨学金、教員の長時間労働、高大接続による民間の教育への入り込みなど、多くの課題が山積しています。

憲法第12条は、基本的人権について、「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。又、国民は、これを濫用してはならないのであって、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負ふ。」と規定してあります。基本的人権の尊重を唱える私たちは、この憲法の要請に誠実に応える必要があります。

最後に、全国組織の違いを超えて教職員組合の共同の運動を推進している教組共闘連絡会主催の全国教職員学習交流集会は、今年度11月に唐津市で開催されます。多くの参加を期待してあいさつとします。

総括、通級指導、給付奨学金署名、憲法・平和・くらしを守るにとりくみなどでした。

第3号議案の予算案は、会計部長である今泉執行委員が提案し、組合員減による収入減の深刻さを伝え、予算面からも組織拡大が必要であることを訴えました。

午後、恒例となっている「くすのき」を全員で合唱しました。承諾はもらってはいませんが、長崎高教組のテーマソング、愛唱歌として定着してきたようです。いい雰囲気です。心一つにして午後4時の日程に入ることができました。

午後後の再開に先がけで、今泉執行委員のリードで、恒例となっている「くすのき」を全員で合唱しました。承諾はもらってはいませんが、長崎高教組のテーマソング、愛唱歌として定着してきたようです。いい雰囲気です。心一つにして午後4時の日程に入ることができました。

午後後の再開に先がけで、今泉執行委員のリードで、恒例となっている「くすのき」を全員で合唱しました。承諾はもらってはいませんが、長崎高教組のテーマソング、愛唱歌として定着してきたようです。いい雰囲気です。心一つにして午後4時の日程に入ることができました。

が行われて、昼食休憩に入りました。

午後、恒例となっている「くすのき」を全員で合唱しました。承諾はもらってはいませんが、長崎高教組のテーマソング、愛唱歌として定着してきたようです。いい雰囲気です。心一つにして午後4時の日程に入ることができました。

午後後の再開に先がけで、今泉執行委員のリードで、恒例となっている「くすのき」を全員で合唱しました。承諾はもらってはいませんが、長崎高教組のテーマソング、愛唱歌として定着してきたようです。いい雰囲気です。心一つにして午後4時の日程に入ることができました。



高退教の吉岡事務局長

組と連帯して、教育と平和のためにともにがんばりましょうと締めくくられました。

その後の討論では、昨年同様に加入を実現した報告、また特別教室のエアコン設置に関する発言、奨学金に関する発言など教育環境について高教組が果たすべき役割があることを再確認しました。発言者は、本部をのぞいてのべ21人でした(討論の概要は次号)。

討論終了後、採決が行われ、2・5号議案のすべてが可決されました。

午後後の再開に先がけで、今泉執行委員のリードで、恒例となっている「くすのき」を全員で合唱しました。承諾はもらってはいませんが、長崎高教組のテーマソング、愛唱歌として定着してきたようです。いい雰囲気です。心一つにして午後4時の日程に入ることができました。

午後後の再開に先がけで、今泉執行委員のリードで、恒例となっている「くすのき」を全員で合唱しました。承諾はもらってはいませんが、長崎高教組のテーマソング、愛唱歌として定着してきたようです。いい雰囲気です。心一つにして午後4時の日程に入ることができました。

午後後の再開に先がけで、今泉執行委員のリードで、恒例となっている「くすのき」を全員で合唱しました。承諾はもらってはいませんが、長崎高教組のテーマソング、愛唱歌として定着してきたようです。いい雰囲気です。心一つにして午後4時の日程に入ることができました。

午後後の再開に先がけで、今泉執行委員のリードで、恒例となっている「くすのき」を全員で合唱しました。承諾はもらってはいませんが、長崎高教組のテーマソング、愛唱歌として定着してきたようです。いい雰囲気です。心一つにして午後4時の日程に入ることができました。

午後後の再開に先がけで、今泉執行委員のリードで、恒例となっている「くすのき」を全員で合唱しました。承諾はもらってはいませんが、長崎高教組のテーマソング、愛唱歌として定着してきたようです。いい雰囲気です。心一つにして午後4時の日程に入ることができました。

# 支部定期大会・支部総会開催 支部教研・共済レク・歓迎会・街頭署名など

6月30日、7月1日の両日、大村支部総会、長崎支部総会&歓迎会、佐世保支部総会&支部教研&「ヒバクシヤ国際署名」街頭署名、島原支部定期大会&共済レクが開催されました。期末考査の時期でも忙しい状況の中で、多くの組合員が集まり、教育、生活権利、組合運動、政治情勢について語りあい、元気と勇気をえました。



## 佐世保支部総会&支部教研&「ヒバクシヤ」署名

佐世保支部では、7月1日に、総会と教研が開催され、7分会から12人が参加しました。総会では、各分会から職場の状況や分会のとりくみが報告され、「若い人の新加入が実現したが、もう一人増やしたい」(佐工全)、「未組合員を誘っての食事を4月に実施したが、もう1回やろうと思う」(佐工定)などの発言がありました。

佐世保支部総会



佐世保支部教研



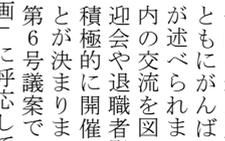
総会に引き続き行われた教研では、佐世保中央高校のスクールソーシャルワーカーである岩本真理子さんを講師に招いて、スクールソーシャルワーカーの活動の内容と役割について学習しました。



「ヒバクシヤ」署名

署名活動には佐世保支部の4人に高教組本部の馬場書記長を加えた5人が参加し、「全ての国に、核兵器を禁止し廃絶することを求める条約を結ぶことを訴える『ヒバクシヤ国際署名』」に協力をお願いし、「被爆者の願いを裏切らずに核兵器禁止条約を制定交渉に参加していかない日本政府の姿勢を変えさせるために署名にご協力を」と訴え、約40分の活動で69筆の署名を集めました。

家族連れや年配の女性の方から多くの協力があり、「安倍政権がすすめている政治はおかしい」と長く話し込まれる方もいました。また、「この前、公民館で署名したよ」と話をされる方もあり、あちこちで「ヒバクシヤ国際署名」が広がっていることがうかがえました。



「ヒバクシヤ」署名

## 大村支部総会

6月30日、大村支部の総会が大村工業高校の放虎寮で開催され、7分会から15人が参加しました。

総会には、参加者全員にお茶とおにぎりが配られて、アットホームな雰囲気の中で、各分会から職場の状況や分会のとりくみが報告され、



大村支部総会

4月からすでに新採2人を含む4人の仲間を迎え入れていた。すべての分会で1人以上の新しい仲間を迎え入れるようにともがらばろうと決意が述べられました。支部内の交流を図るため、歓迎会や退職者慰労会など積極的に行いました。また、第6号議案で「3か年計画」に呼応して支部加入

## 長崎支部総会&歓迎会

7月1日、長崎支部総会が鳴滝高校図書館4階で開催され、13分会から21人が参加しました。支部活動総括では、書記長予定者が異動になり混乱し、支部活動も停滞した時期もあったが、支部全体としては4人の新加入を迎えたこと、歓迎会、懇親会、退職者慰労会などのべ49人の参加があったことが報告されました。

第7号議案で、支部役員立候補者数が定数内の場合、選挙を省略するとの提議があり、賛否両論がありました。反対の意思表示の機会を残すべき、選ばれた側も選挙の結果役員に選出された方が励みになるなどの意見が勝り、従来通り選挙をおこなうことになりました。

人事院九州事務局交渉  
退職金引き下げ反対を訴える  
人事院九州事務局に「公務労組九州ブロック連絡会2017年夏季重点要求書」を提出し、6月30日の交渉に小田委員長が参加しました。交渉は、福岡市内の合同庁舎内で行われ、重点要求は、退職手当の引き下げをおこなわないよう政府に働きかけることと超勤削減のとりくみを強化することです。退職手当は労働条件の一部であり、

促進費が提案され、論議の結果、今年度も支部加入促進費を支出できるようになりました。問題点はあるが、加入拡大のきっかけとして新加入が実現するようとりくんでいくことが確認されました。



長崎支部総会

## 島原支部定期大会&共済レクレーション

7月1日、島原支部の定期大会が森岳公民館で開催され、20人が参加しました。

松本支部長は、先日の長崎高教組第88回定期大会の来賓である壇原全教書記次長が紹介した「よい職場をつくるキーワード」は、余裕・仲間・自己決定権という言葉に言及してあいさつを行いました。「余裕」については、

①自信をもって行動しよう  
②自分のできることをやろう  
③組合員同士で声をかけあおう  
④声かけ  
⑤組合員同士で声をかけあおう、1人ではなく仲間がいることを感じ元気をもらったり元気を与えたりしよう  
⑥討論では、以下、2つのことについて発言がありました。

「県教委の学校閉庁・定時退校等のとりくみはただの形だけのものにすぎない。ポータルサイトでしかできない仕事が減っている中、ストレスが増えている。本当に必要なことは、教職員の増員である。一掃りたくても帰れない、帰っても帰る仕事がないもあ

島原支部定期大会